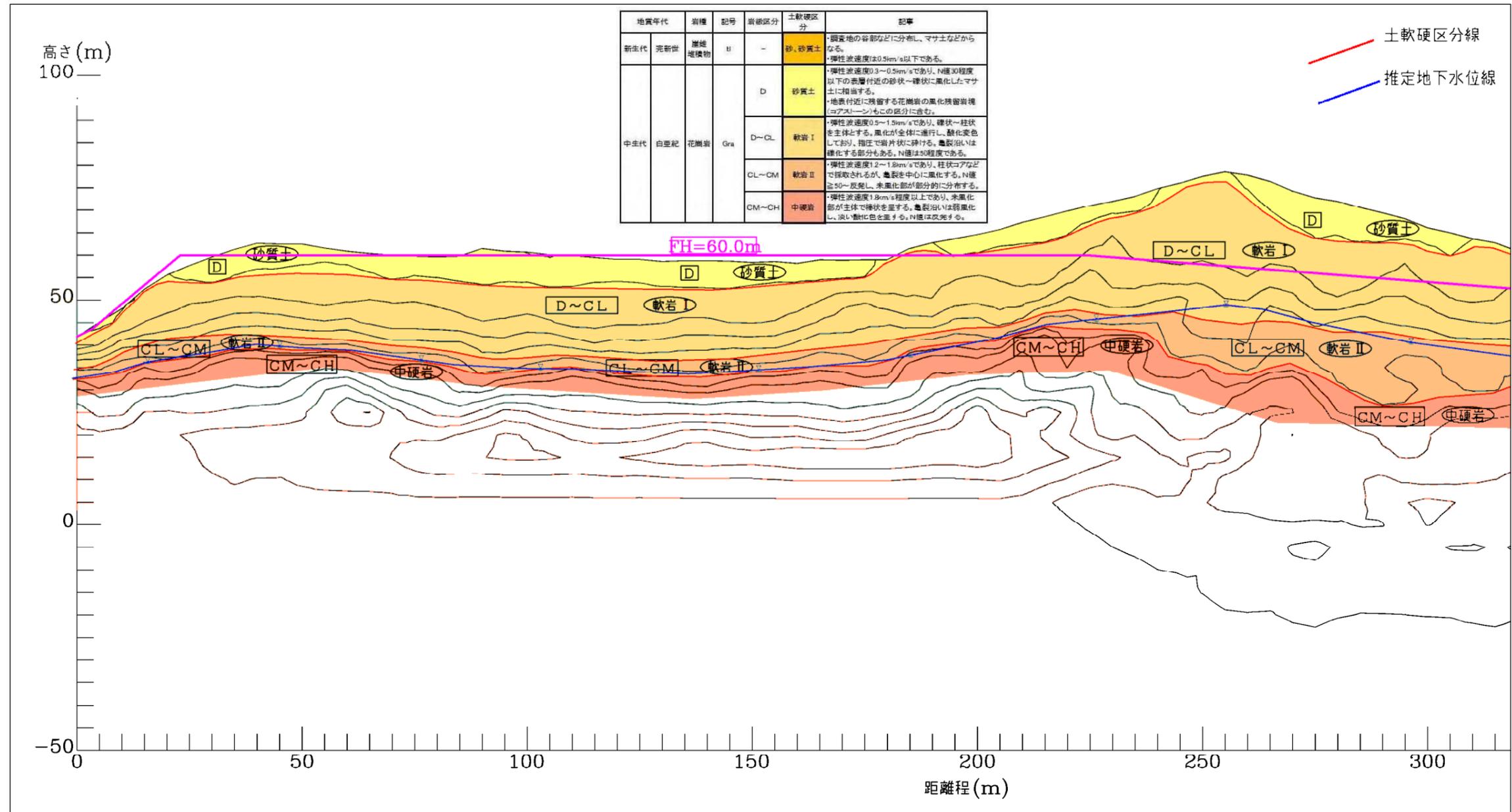
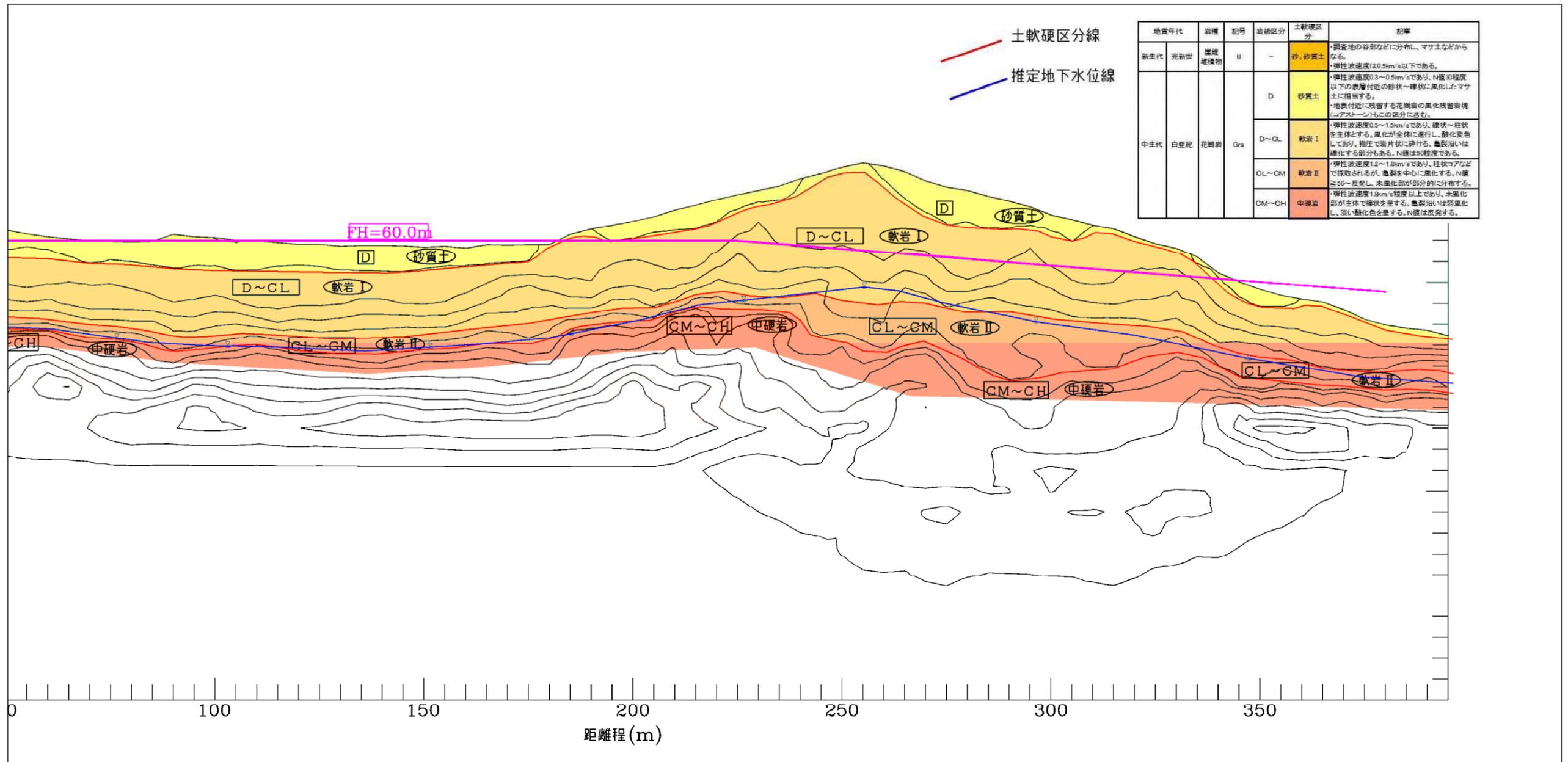


# 弾性波探査に基づく想定土軟硬断面図

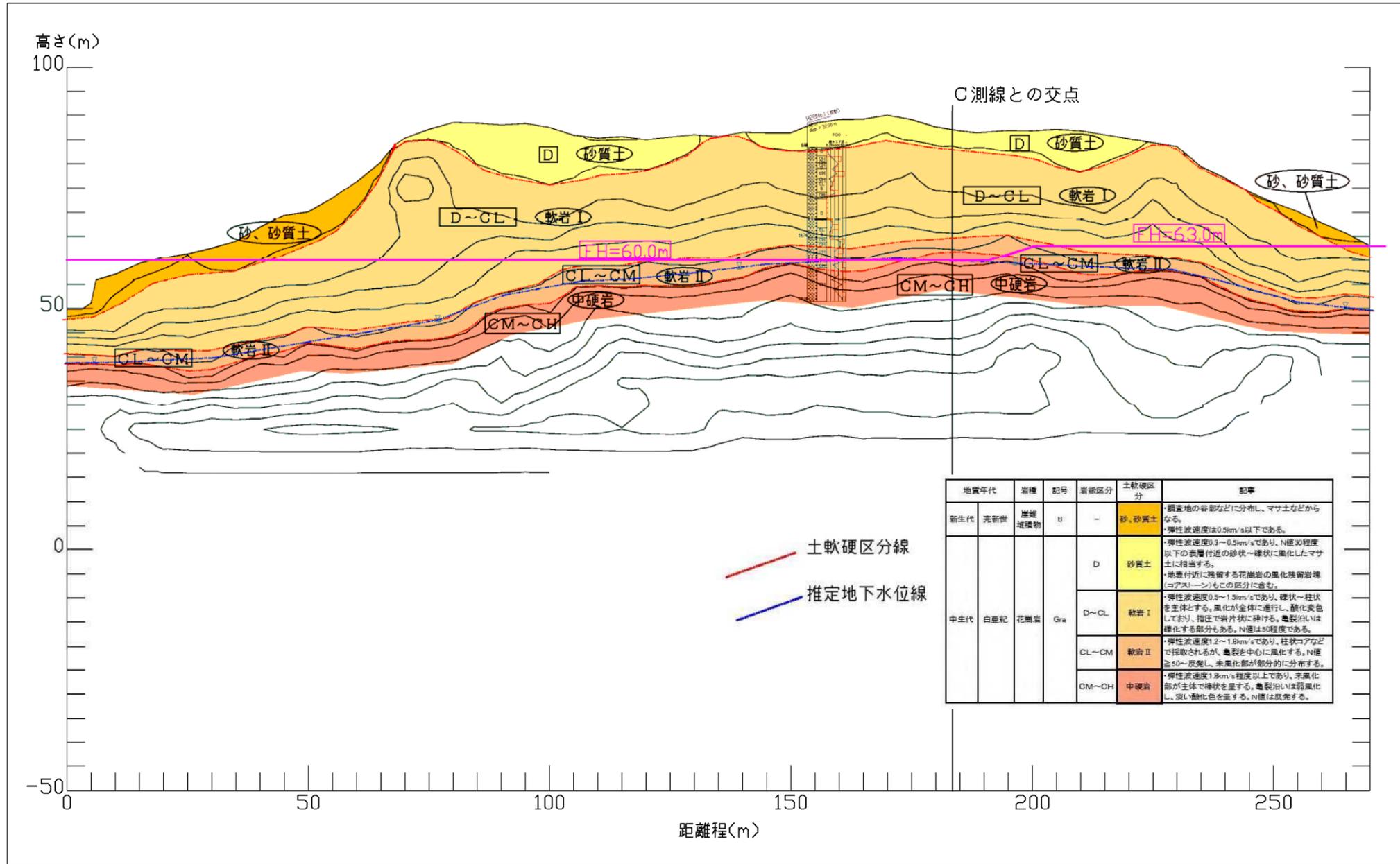
土軟硬断面図 (A測線-1)



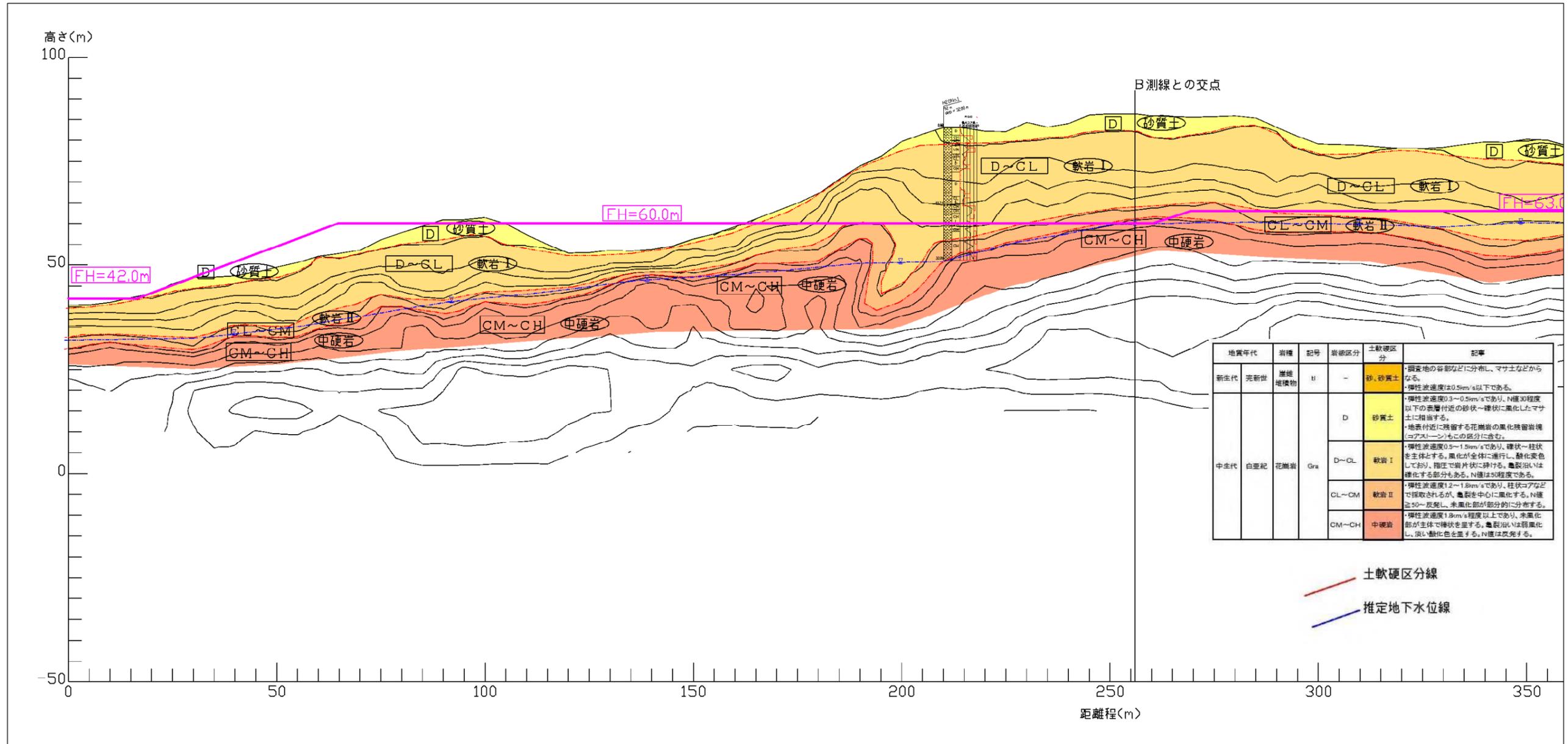
土軟硬断面図 (A測線-2)



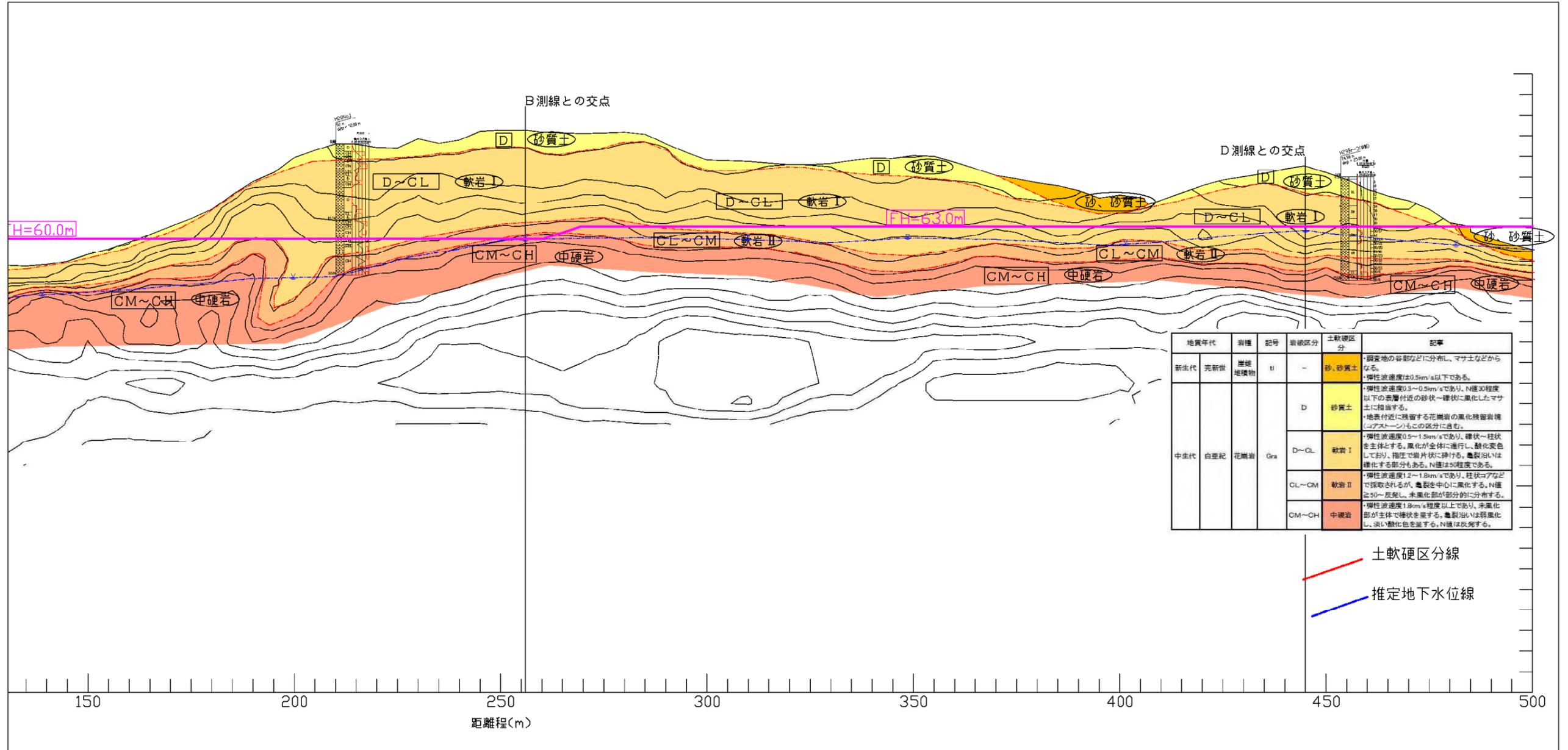
土軟硬断面図 (B測線)



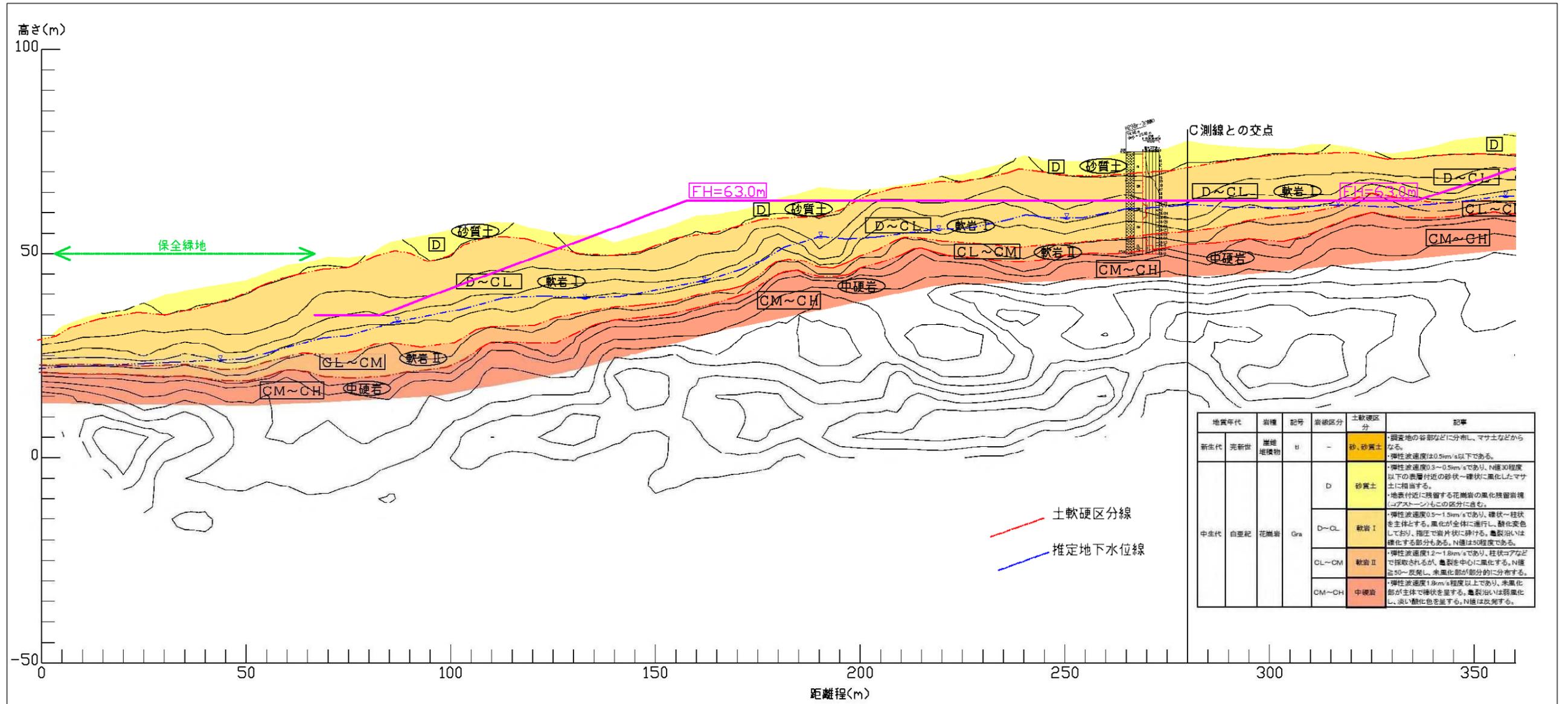
土軟硬断面図 (C測線-1)



土軟硬断面図 (C測線-2)

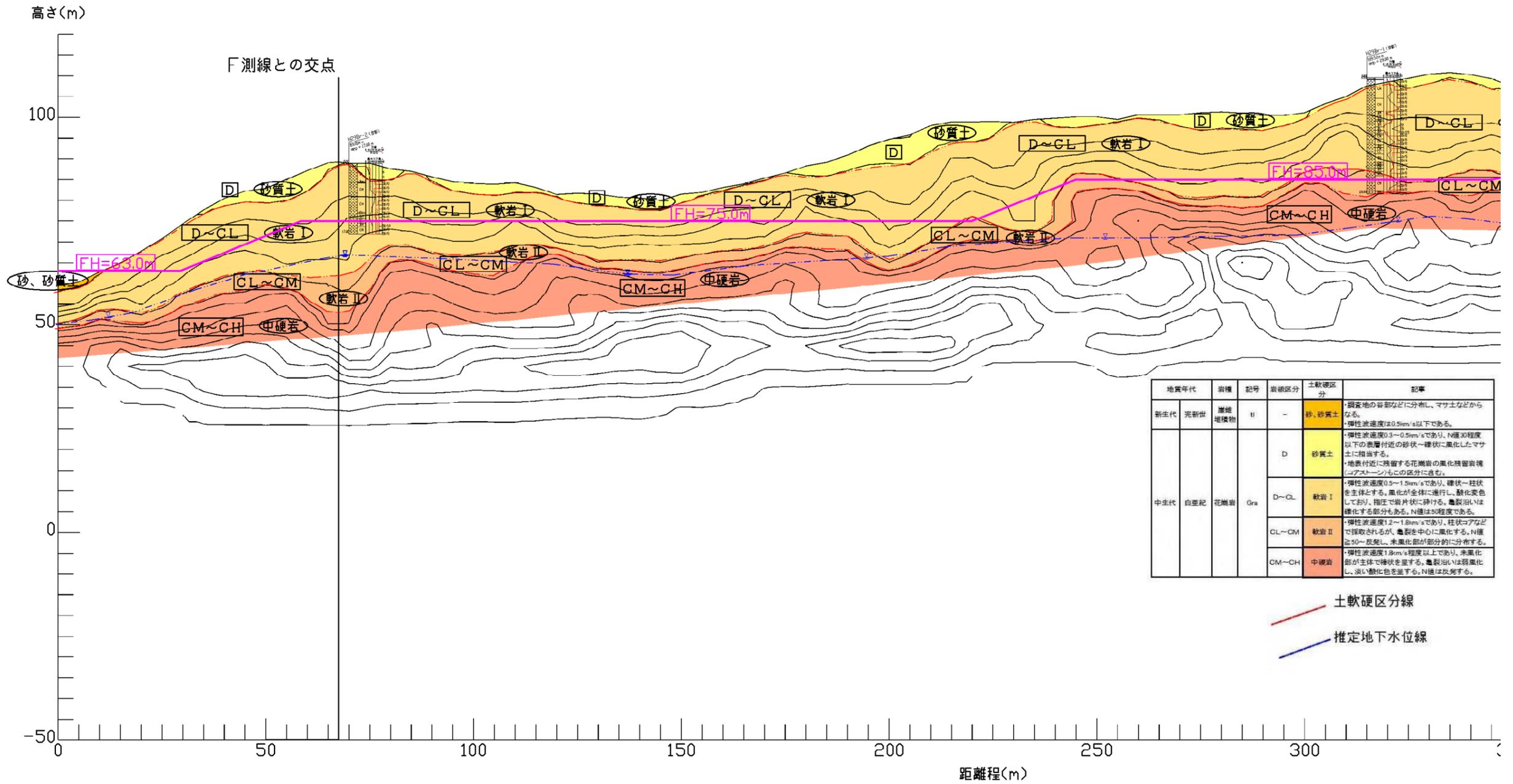


土軟硬断面図 (D測線-1)

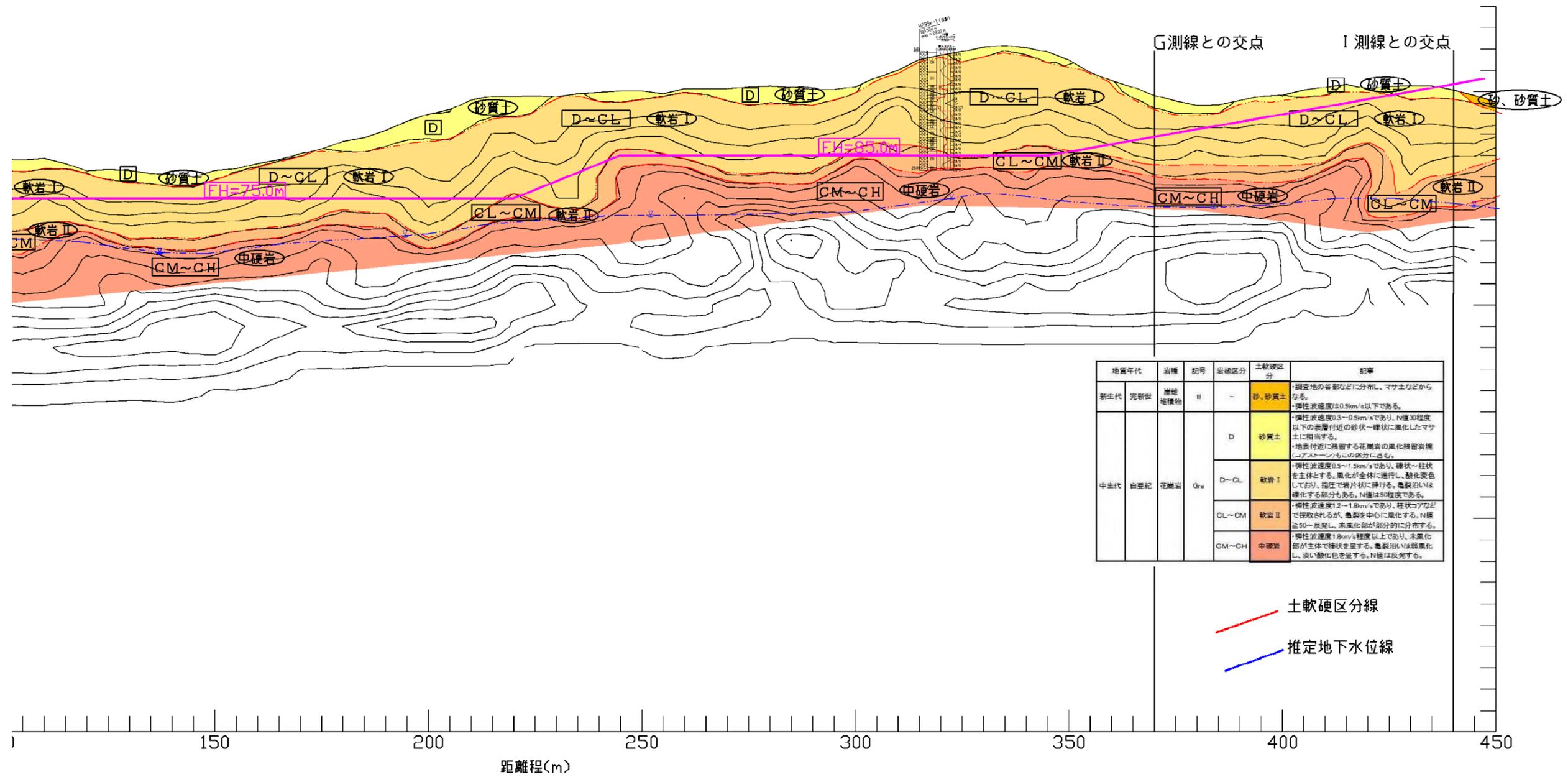




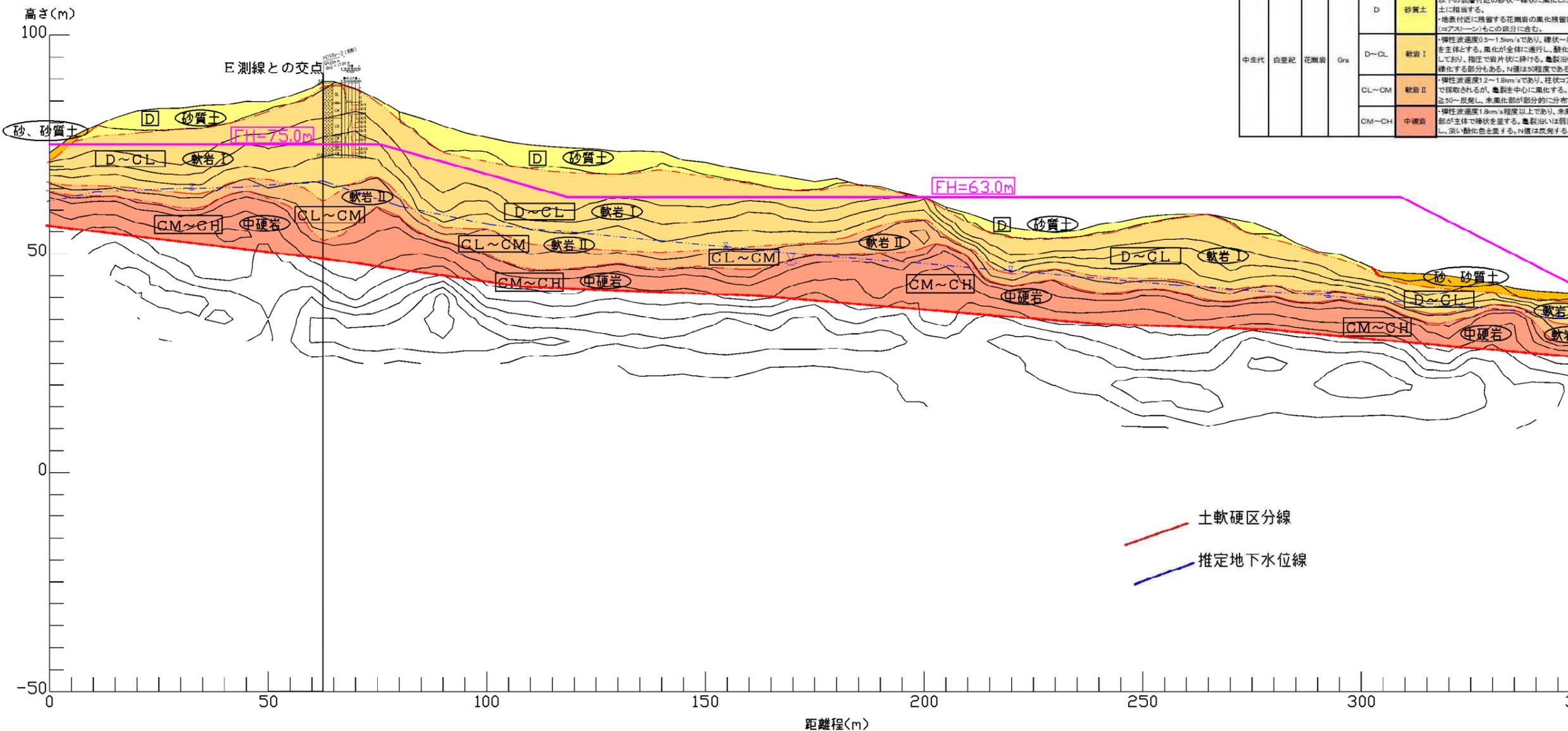
土軟硬断面図 (E測線-1)



土軟硬断面図 (E測線-2)



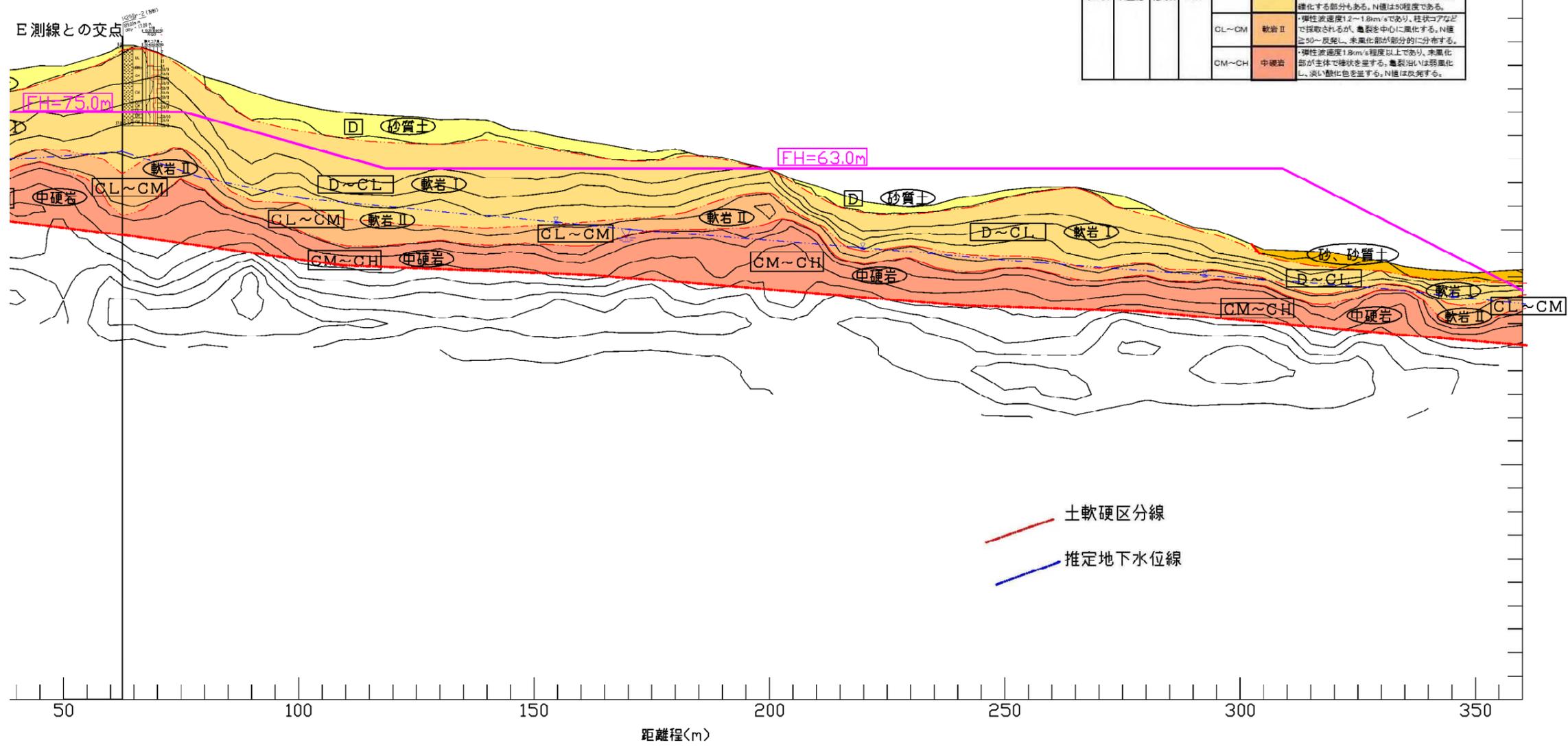
土軟硬断面図 (F測線-1)



地質年代	岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	更新世	II	-	砂、砂質土	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5m/s以下である。
				D	砂質土
中生代	白堊紀	Gra	花崗岩	D~CL	・弾性波速度0.5~1.5m/sであり、礫状~柱状を主体とする。風化が全体に進行し、融色変色しており、指圧で崩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	・弾性波速度1.2~1.8m/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50~反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	・弾性波速度1.8m/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い融色を呈する。N値は反発する。

土軟硬区分線  
推定地下水位線

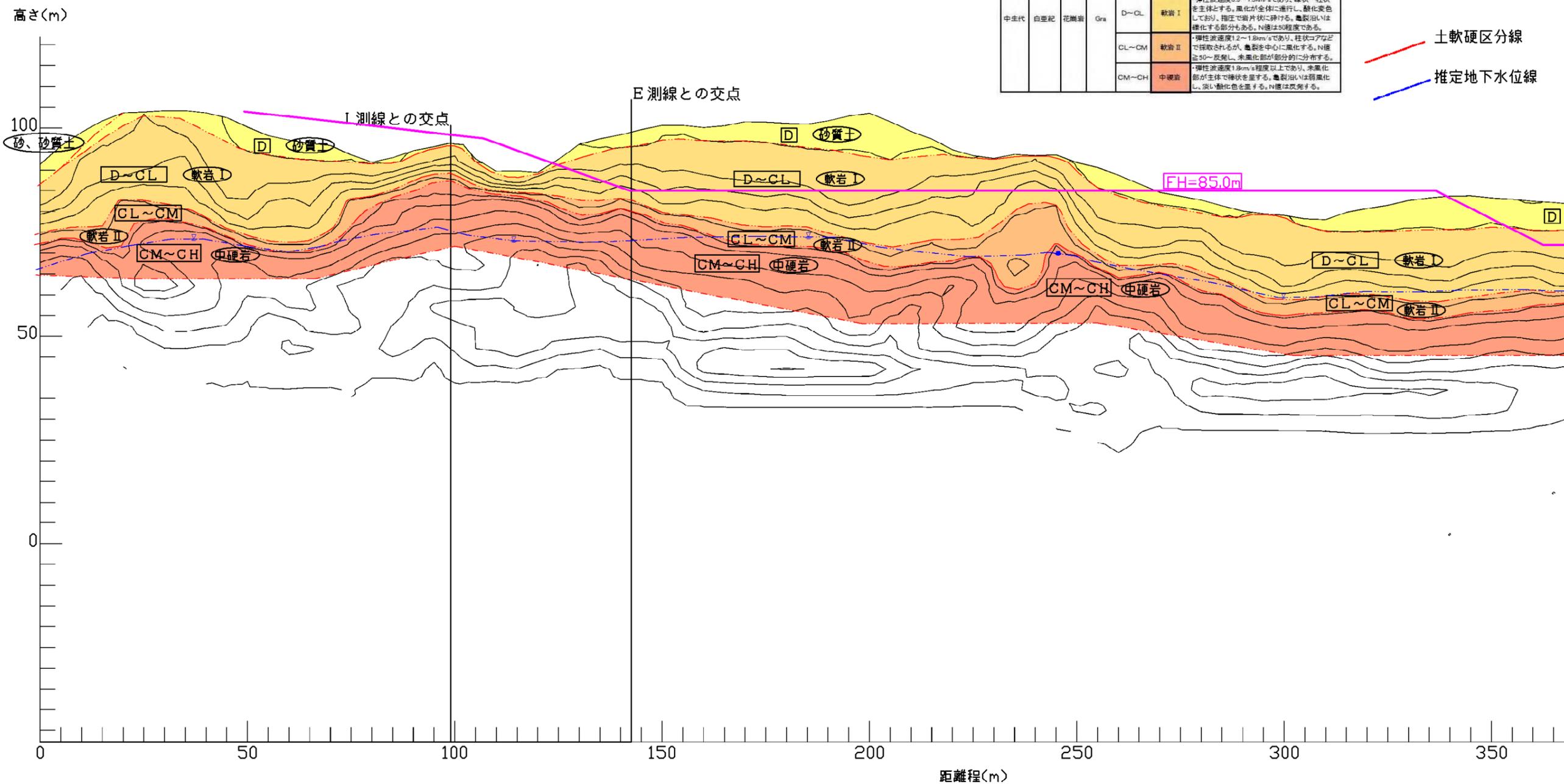
土軟硬断面図 (F測線-2)



地質年代	岩種	記号	土軟硬区分	記事		
新生代	更新世	崖壁堆積物	II	-	砂、砂質土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。</li> <li>・弾性波速度は0.5km/s以下である。</li> </ul>
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性波速度0.3~0.5km/sであり、N値の程度以下の表層付近の砂状~礫状に風化したマサ土に相当する。</li> <li>・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩塊(コアストーン)もこの区分に含む。</li> </ul>
			D~CL	軟岩 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性波速度0.5~1.0km/sであり、礫状~柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸色としており、塊状で岩片状に砕ける。亀裂は多いが、N値は50程度である。</li> </ul>	
			CL~CM	軟岩 II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性波速度1.2~1.8km/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50~70程度あり、未風化部が部分的に分布する。</li> </ul>	
			CM~CH	中硬岩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性波速度1.8km/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂は多いが弱風化し、淡い酸色を呈する。N値は70程度である。</li> </ul>	

土軟硬区分線  
推定地下水位線

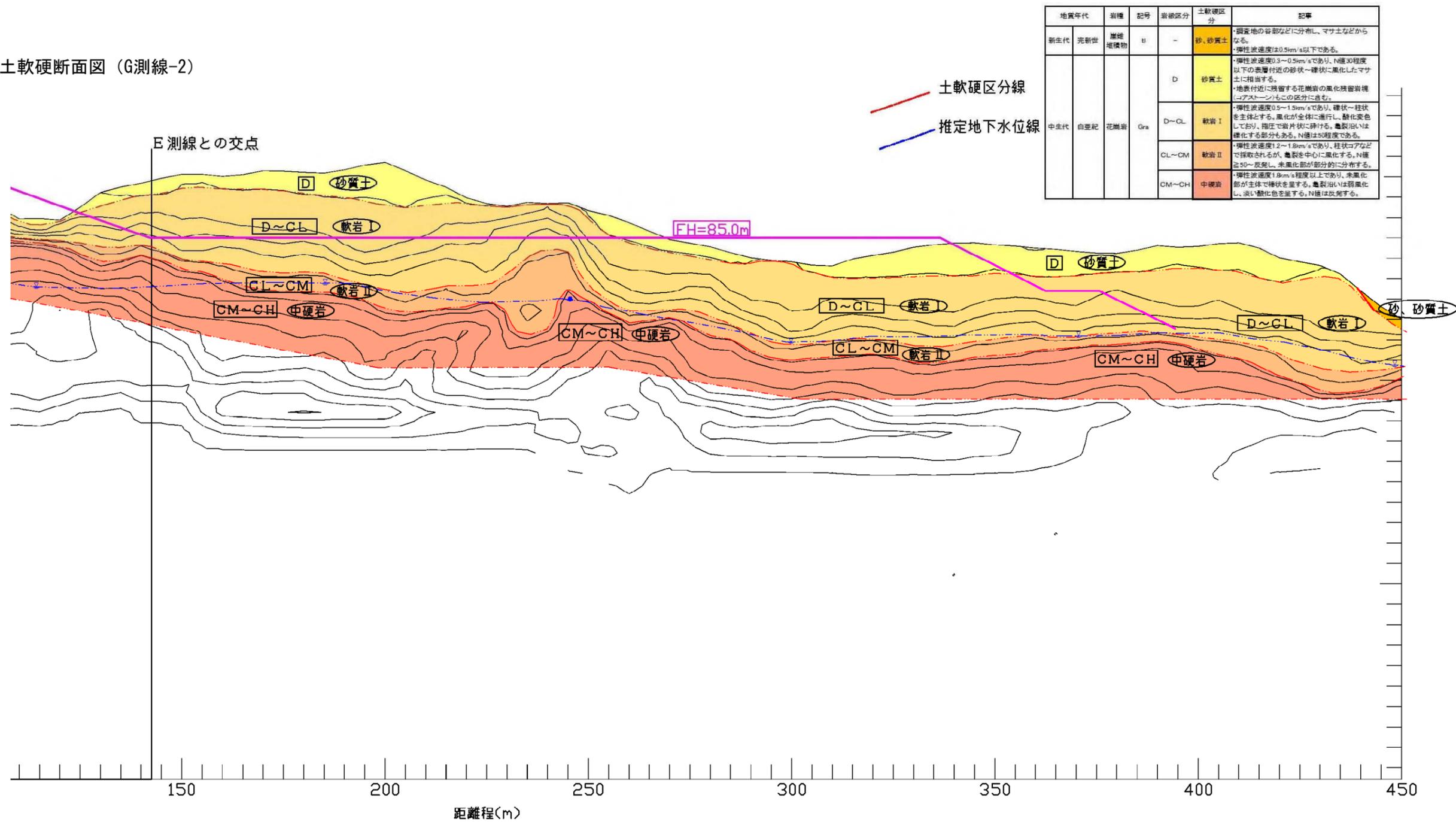
土軟硬断面図 (G測線-1)



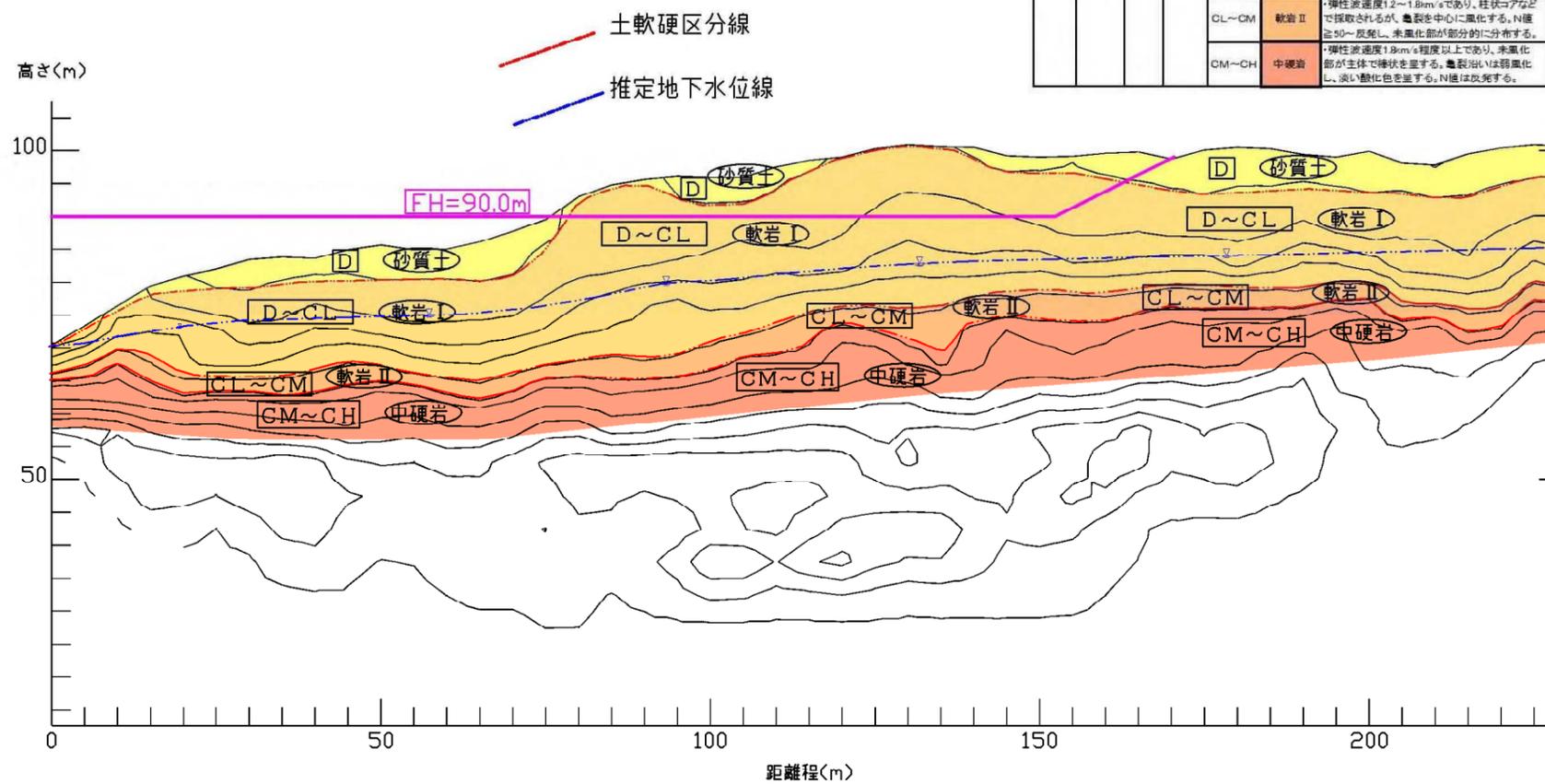
地質年代	岩種	記号	岩級区分	土軟硬区分	記事
新生代	更新世 堆積物	U	-	砂、砂質土	・調査地の各層などに分布し、マサ土などからなる。 ・弾性波速度は0.5m/s以下である。
				D	砂質土
中生代	白亜紀	Gra	花崗岩	D~CL	・弾性波速度0.5~1.5m/sであり、礫状~柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で崩片状に砕ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	・弾性波速度1.2~1.8m/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50~70程度あり、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	・弾性波速度1.8m/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、深い酸化色を呈する。N値は70程度である。

— 土軟硬区分線  
- - - 推定地下水位線

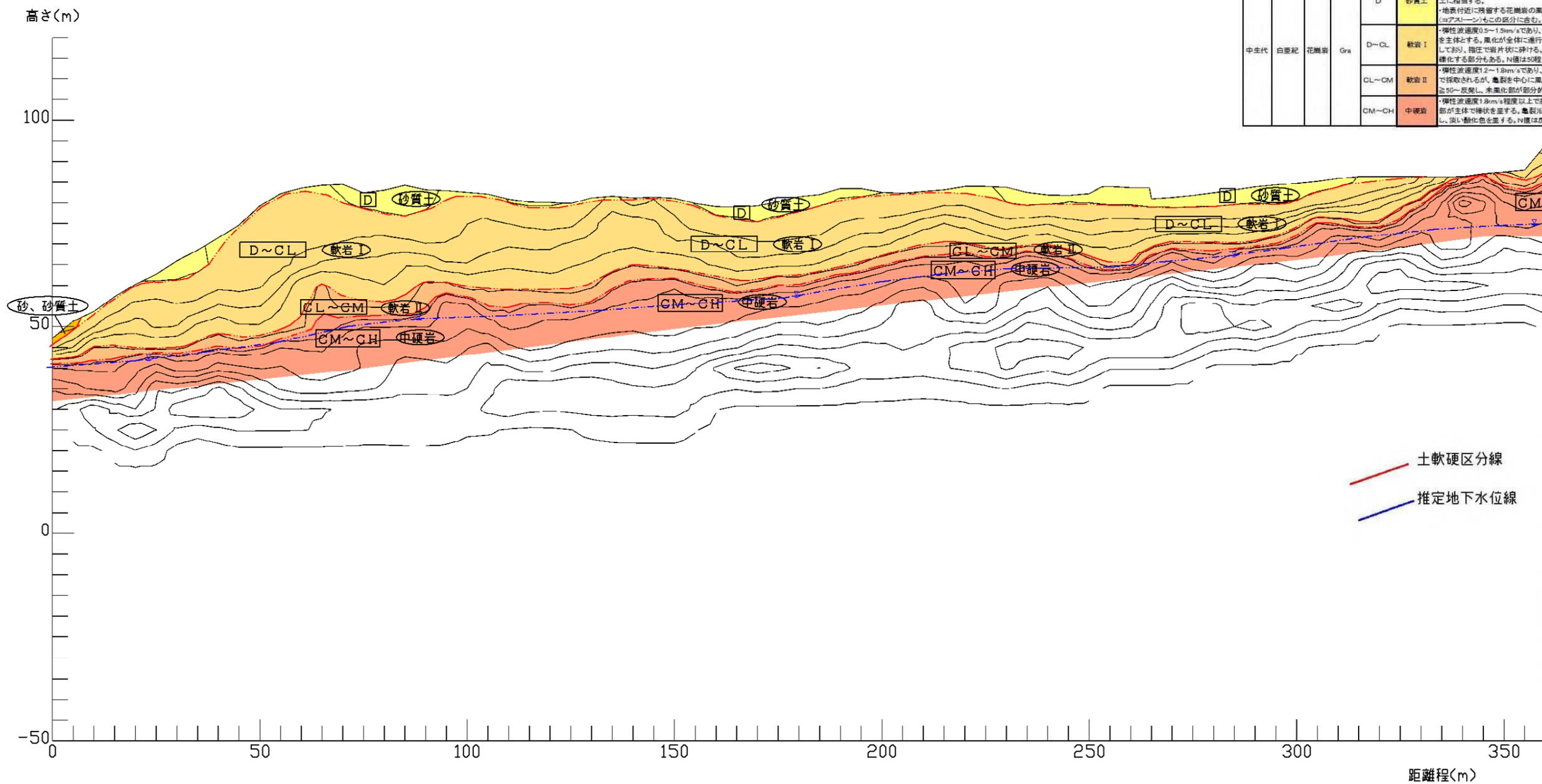
土軟硬断面図 (G測線-2)



土軟硬断面図 (H測線)



土軟硬断面図 (I測線-1)



地質年代	岩種	記号	土軟硬区分	土軟硬区分	記事
新生代	完新世	崖堆積物	U	-	・調査地の谷部などに分布し、マサ土などからなる。 ・塑性波速度は0.5m/s以下である。
中生代	白亜紀	花崗岩	Gra	D	砂質土 ・塑性波速度0.3~0.5m/sであり、N値30程度以下の表層付近の砂状~礫状に風化したマサ土に相当する。 ・地表付近に残留する花崗岩の風化残留岩種(コアストーン)もこの区分に含む。
				D~CL	軟岩 I ・塑性波速度0.5~1.5m/sであり、礫状~柱状を主体とする。風化が全体に進行し、酸化変色しており、指圧で岩片状に碎ける。亀裂沿いは礫化する部分もある。N値は50程度である。
				CL~CM	軟岩 II ・塑性波速度1.2~1.8m/sであり、柱状コアなどで採取されるが、亀裂を中心に風化する。N値は50~反発し、未風化部が部分的に分布する。
				CM~CH	中硬岩 ・塑性波速度1.8m/s程度以上であり、未風化部が主体で礫状を呈する。亀裂沿いは弱風化し、淡い酸化色を呈する。N値は反発する。

土軟硬断面図 (I測線-2)

